

# 校友会報

第84号

令和3年3月1日

## INDEX

- ごあいさつ ..... 2
- 令和2年度通常総会について ..... 3
- 台風19号被災支援金ご報告 ..... 3
- 支部活動報告 ..... 4
- 校友会より・求人情報提供ください ..... 8
- 令和元年東日本台風による洪水被害を振り返る ..... 9
- 日本大学工学部が推進する産学官連携活動(4) ..... 10
- コロナ禍での授業 ..... 12

- 新☆エネルギーコンテスト開催報告 ..... 13
- 校友レポート ..... 14
- 令和3年度通常総会通知・第40回母校を訪ねる会 ..... 16



表紙のQRコードをスマートフォンで読み取ると、校友会のホームページをご覧ください。

## ごあいさつ



工学部長 根本 修克

令和3年の早春を迎え、校友の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

工学部は、令和元年の台風19号による未曾有の大規模水害被災からの復旧・復興に向けた活動の一環として、令和2年は、前年に引き続き、キャンパス強靱化プロジェクトによる水害発生状況の多角的かつ精密な解析に基づき、水害発生メカニズムや被災時の避難経路などについて究明してきました。また、未来の防災・減災に向けて、工学部のみならず地域の方々の安心・安全な生活環境の整備に与するために、ロハス工学シンポジウムを通して、その研究成果を公表し、情報提供して参りました。さらに、大規模水害からの復旧・復興を目指した取り組みの最中、さらなる自然災害とも捉えられる新型コロナウイルス感染症拡大により、工学部の教育・研究活動に制限が生じました。しかしながら、工学部教職員の尽力のみならず学生の協力も得ながら、感染症防止対策を講じることにより、令和2年6月半ば以降、入構人数制限はあるもののキャンパス内に学生を招き入れて、対面授業の実施を含めた教育・研究活動を行うまでに至りました。

度重なる災害の中、工学部がここまでに至りましたのも、日本大学本部校友会ならびに工学部校友会および他

学部校友会、校友会各支部を通しての校友の皆様からの多大なるご支援の賜と衷心より感謝申し上げます次第でございます。校友の皆様から賜りました支援金はコロナ禍に窮する学生に対して有効に使用させていただき、十分な感染症拡大防止対策を講じ、ウィズコロナの時代における安全・安心な教育・研究環境の構築を行いながら、教育・研究活動を推進して参ります。

工学部では、20年以上にわたり、「ロハス工学」を基盤とする研究活動を行って参りました。このたび、「ロハス工学センター」を立ち上げましたので、「ロハス工学センター」を基点とする学内あるいは学外共同研究をさらに発展させ、今後も、工学部の研究基盤となる「ロハス工学」に関わる研究成果を広く社会に発信して参ります。

結びに、校友の皆様のご健勝とご活躍ならびに工学部校友会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

### profile

1963年東京都生まれ。1992年3月早稲田大学大学院理工学研究科応用化学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。職歴として、早稲田大学理工学部化学科・助手、(公財)相模中央化学研究所・研究員、新工エネルギー・産業技術総合開発機構・産業技術研究員、山形大学工学部機能高分子工学科・助手を経て、2002年に日本大学工学部物質化学工学科・助教授(准教授)に着任、2010年より日本大学工学部生命応用化学科・教授。専門分野は、有機材料化学、高分子合成化学で、最近では、ケイ素含有機能性高分子材料の創製や高分子固体電解質型燃料電池用触媒の創製を主な研究課題として手がけている。



校友会会長 中野 伍朗

校友の皆様におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症の早期の終息を願いますとともに、その影響を受けた校友の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

令和元年10月の台風19号により母校キャンパスは洪水被害に見舞われ、また母校の近くに住んでいる800名近い学生の住まいにも床上浸水など甚大な被害がもたらされました。

工学部校友会といたしまして、卒業生の皆様から、台風19号による洪水によって被災した学生に対し、支援のための「日本大学工学部校友会台風19号災害支援金」を校友会報第83号とホームページで令和2年10月まで募集いたしました。多くの皆様からご賛同を頂き、支援金をご寄付頂きました。ありがとうございました。工

学部校友会と本部校友会からの寄付金と合わせ計600万円近くを災害給付金として支給させていただきました。

また昨年からの新型コロナウイルスによる影響で、母校キャンパスも大変な状況となっております。授業の大半はリモートとなり、学園祭も2年連続で中止となりました。例年校友会参加事業として行って参りました「母校を訪ねる会、キャンパスツアー、校友茶会」の開催も残念ながら見送りとなりました。また例年4月に開催しております工学部校友会総会も中止となりました。

今後、工学部校友会といたしましては、学生ファーストで、学部と連携して新型コロナウイルス関連の支援等を立ち上げ、取り組んでまいりたいと考えております。

また、工学部教職員の皆様のご平素からのご支援、ご協力に感謝申し上げます。これからも工学部ならびに工学部校友会が連携して車の両輪となり、母校の発展に寄与できれば幸いです。

最後になりますが、校友の皆様におかれましては、今後とも工学部校友会に対して変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げますと共に、日本大学と工学部の更なる発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



## 令和2年度通常総会について

令和2年度通常総会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催を断念致しました。そのため令和2年度の会務については、令和2年7月18日(土)に役員総会を開催し、暫定的な予算、事業計画等を定めて執行することに致しました。尚、役員総会での審議内容は次回の通常総会にて改めて諮る形となります。



## 台風19号被災支援金ご報告

校友の皆様には日頃より校友会活動へのご協力、ご支援をいただき御礼申し上げます。

さて、この度は当会の「令和元年台風19号被災支援金」に際して、過分なるご支援金を賜り、心より感謝申し上げます。

令和元年11月から令和2年10月末日までの期間中に当会の会報誌並びにホームページを通じてご支援をお願い致しましたところ、総額「5,447,505円」の寄付金を頂戴致しました。

この貴重なご芳志につきましては、800名規模の被災学生に対する「工学部災害奨学金」の一部として充当させていただきました。

皆様方からの温かいご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後とも校友会活動に対する皆様からのご期待にお応えできますよう、当会役員一同真摯に会務に励む次第でございます。

略儀ではございますが、書面をもちまして御礼申し上げます。



### ●寄付者ご芳名 (敬称略・アイウエオ順)

令和2年2月1日～10月31日受付分

有澤 康夫	ウスイ トシオ
江黒 俊弘	小川 充宏
鹿志村 克	小松 伸一
近藤 公治	杉山 和則
高木美由紀	タカハシ シゲノブ
武田 一榮	寿田 慎哉
種石 浩	俵 能正
千代 貞雄	手塚 公敏
富内 俊介	十時三枝子
中嶋 憲二	

日本大学工学部校友会教員部会静岡支部

日本大学工学部校友会東東海支部

日本大学校友会

野呂 正彦	ハギワラ マサキ
平山 和則	堀 豊
牧田 守世	松井 鎮夫
松井 靖浩	松尾 孝
松岡 晴男	松本 英雄

(株)六晃電気産業 水越多加夫

山口佐知子

(株)四津屋商店

渡邊 勝

# 支部活動報告

## 北海道支部

北海道札幌市豊平区美園11条5-2-9  
(株)横関工業内 ☎011-831-6851



支部長

**横関 一伸**  
(建築 25 回卒)

### ● 支会構成

北海道支部のほか8支会に分かれています。

- 道南支会 (渡島振興局・檜山振興局)
- 日胆支会 (日高振興局・胆振振興局)
- 道央支会 (石狩振興局・後志振興局)
- 空知支会 (空知振興局)
- 道北支会 (上川振興局・留萌振興局・宗谷振興局)
- 網走支会 (網走振興局)
- 十勝支会 (十勝振興局)
- 釧根支会 (釧路振興局・根室振興局)

### ● 役員

相談役

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 三上 繁 (機械8)   | 芦田 惇 (建築9)   |
| 藤井 兼蔵 (建築10) | 佐々木義則 (土木10) |
| 吉田 宏 (建築12)  | 船越 政明 (土木15) |
| 藤林 義廣 (土木17) | 成田 一稔 (土木15) |
| 岡本 繁美 (土木16) | 片山 憲治 (土木22) |

会長(支部長) **横関 一伸** (建築25)

副会長 **川幡 宏一** (建築25)

道南支会 (渡島・檜山) 支会長 **中塚 卓朗** (土木34)  
副支会長 **相馬 信幸** (建築24)

日胆支会 (日高・胆振) 支会長 **櫻田 泰清** (土木23)  
副支会長 **成田 修司** (機械24)

- |                 |                     |                     |
|-----------------|---------------------|---------------------|
| 道央支会 (石狩・後志)    | 支会長                 | <b>片山 憲司</b> (土木22) |
| 空知支会 (空知)       | 支会長                 | <b>香西 罔雄</b> (建築20) |
| 道北支会 (上川・留萌・宗谷) | 支会長                 | <b>中田 宏樹</b> (土木25) |
| 網走支会 (網走)       | 空席                  |                     |
| 十勝支会 (十勝)       | 支会長                 | <b>徳井 裕昭</b> (土木24) |
|                 | 副支会長                | <b>鹿島 豊隆</b> (建築23) |
| 釧根支会 (釧路・根室)    | 支会長                 | <b>濁沼 英一</b> (土木18) |
|                 | 副支会長                | <b>金丸 幸司</b> (建築25) |
| 事務局長            | <b>吉田 純治</b> (建築26) |                     |
| 事務局             | <b>高杉 和広</b> (土木26) | <b>上谷 達也</b> (土木51) |
|                 | <b>成田 修司</b> (機械24) | <b>中村 博計</b> (電気51) |
|                 | <b>金谷 貞夫</b> (電気24) |                     |
|                 | <b>宮岸 泰治</b> (工化17) |                     |
| 監査役             | <b>出村 道昭</b> (建築10) | <b>山本 雅章</b> (土木16) |

### ● 主な年間行事

- 2月 役員新年会及び役員会会計監査
- 4月 本部総会報告役員会
- 8月 北海道桜工会  
総会
- 9月 役員会
- 10月 支部総会



## 関東支部

神奈川県横浜市港北区綱島上町1-1-4-822  
☎045-546-2647



支部長

**小林 啓一**  
(土木 20 回卒)

### ● 役員

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| 会長          | <b>小林 啓一</b> (土木 20) |
| 事務局長        | <b>島津 幸久</b> (電気 38) |
| 東京都校友会会長    | <b>山本 健史</b> (建築 37) |
| 事務局長        | <b>浜崎 信一</b> (建築 29) |
| 千葉県校友会会長    | <b>藍郷黎次郎</b> (土木 16) |
| 事務局長        | <b>松尾 清志</b> (土木 29) |
| 神奈川県校友会会長   | <b>本田 貢</b> (土木 21)  |
| 事務局長        | <b>早川 辰也</b> (土木 29) |
| 栃木県校友会会長    | <b>星野 光利</b> (土木 33) |
| 事務局長        | <b>篠崎 淳</b> (土木 36)  |
| 群馬県校友会連絡責任者 | <b>福井 清</b> (土木 14)  |
| 埼玉県校友会会長    | <b>永田正一郎</b> (土木 21) |
| 事務局長        | <b>城座 隆夫</b> (機械 21) |
| 茨城県校友会連絡責任者 | <b>穴戸 薫</b> (土木 13)  |
| 山梨県校友会連絡責任者 | <b>正木 徳栄</b> (土木 46) |
| 長野県校友会会長    | <b>山田 政義</b> (土木 29) |
| 事務局長        | <b>酒井 洋</b> (土木 31)  |



◀2020.1.2  
東京箱根間往復大学駅伝応援風景  
(2区 横浜市西区高島町交差点)

### ● 主な年間行事

関東支部の年間行事は、毎年6月に関東支部総会を開催、都県校友会は定期的に役員会、総会を開催しております。また、4月の工学部校友会総会、11月の日本大学校友会全国大会等に出席しております。今回は、箱根駅伝の応援に参加することはできませんでしたが、箱根駅伝応援当初より、1区、10区の手町、2区、9区の高島町交差点付近で応援を行っております。高島町交差点の応援責任者は工学部卒業生が担当しておりますので、校友の皆様の参加をお待ちしております。

### ● 本年度の活動

本年度の関東支部活動は、コロナ禍の影響で総会等の大勢の校友が集まる集会は自粛しております。コロナ禍で可能な活動としては、定期的に都県校友会と連絡を取っております。コロナ禍が収まりましたら、関東支部・都県校友会総会等を開催し絆を深めたいと思いますので、校友会の皆様のご参加をお願いいたします。

### ● 活動のモットー

関東支部は、工学部校友会の中で最大の組織であります。校友は多種多様な業界で活躍しておりますので、若い世代の校友が参加し先輩校友との絆を築いて欲しいと思います。郡山で学んだ校友は、先輩・後輩を問わず全員が仲間です。何かお役に立つことがあれば何時でも連絡ください。今後の校友会を活性化させるために校友皆様の校友会への参加を歓迎しております。



## 北陸支部

新潟県新潟市秋葉区横川浜518-12  
☎0250-38-4994



支部長

山本 久  
(土木 31 回卒)

支部長交代年度でその他役職も含めて改選の予定でしたが、総会が見送りとなり 2019 年度役員名継続です。

神林幸夫常勤顧問 逝去 (土木 22)  
帆刈俊喜副支部長 退任 (建築 29)



### ●主な年間行事

7月18日、役員会を開催したのみで、その他総会・ゴルフコンペ等全ての行事が中止です。

### ●本年度の活動

12月になり役員会+α(有志や旧父母会等)による忘年会の機会があればと考えていましたが、コロナ感染の再拡大の兆候となり、非常に厳しい状況です。

### ●活動のモットー

現在北陸支部会員は200名程が登録し、その内3割程度の熱心な会員が支部活動を支えています。今後も役員はじめ顧問の諸先輩や会員との連絡を密にし、工学部校友会会員の輪を広げ、楽しくそして仕事関連の情報交換等も積極的に進めながら、活気のある支部運営を目指して取り組んでいきたいと考えています。今後ともご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

## 東海支部

愛知県名古屋市中区栄4-6-25  
川北電気工業(株)内 ☎052-251-7111



支部長

近藤 直幸  
(土木 28 回卒)

### ●担当エリア 愛知県、岐阜県、三重県

### ●役員

顧問 市川三千男 (建築 17)  
支部長 近藤 直幸 (土木 28)  
副支部長 早川 幸男 (土木 21)  
鈴木 太 (土木 29)  
事務局長 乾 高章 (土木 32)  
事務局次長 松井 祐樹 (土木 57)  
会計監査 鈴木 太 (土木 29) 兼務  
松井 祐樹 (土木 57) 兼務  
理事 齋藤 俊郎 (工化 20)  
佐治 一良 (工化 21)  
大堀 宗弘 (土木 25)  
平松 良文 (土木 28)  
林 誠 (土木 29)  
岡本 敏幸 (土木 30)  
安孫子敬美 (土木 34)  
濱田 隆行 (土木 35)



### ●主な年間行事

夏の総会に向けて2月に役員会、4月春の懇親ゴルフ会、7月総会、10月秋の懇親ゴルフ会、11月忘年会

### ●本年度の活動

いろいろな行事に参加頂けるOBの多くが高齢になっており、コロナ感染を考慮し何もなくて当たり前で、万が一何かあったら問題(母校の名前が出る可能性も考えられるため)になるため、令和3年度も何もできないのかと考えております。

### ●活動のモットー

同窓同士での情報交換により同窓の当地域での活躍、母校愛、今年は箱根駅伝に母校の出場がなく寂しい正月でした。

## 東東海支部

静岡県焼津市本中根485-5  
☎080-1626-6412



支部長

酒井 浩行  
(土木 36 回卒)

### ●支会構成

東部支会  
中部支会  
西部支会

### ●役員

支部長 酒井 浩行 (土木 36)  
幹事長 渡辺伸一郎 (土木 20)  
事務局長 永田 進 (建築 22)

### ●主な年間行事

総会(東部・中部・西部支会の持ち回りで開催)  
インターンシップ、企業説明会 8月に県内企業、県庁、市役所、町役場校友の参加を得て、学生に対して実施  
常任幹事会 年間3~4回開催。幹事(25名)の出席を得て、情報交換、行事立案を実施しています。

### ●本年度の活動

令和元年より学部2~3年生を対象に県内の企業・県・市・町役場の参加を得てインターンシップ、説明会を開催しています。令和2年もコロナ感染対策の環境で8月に学生50余名、校友30余名の出席を得て開催しました。学生、父母の関心は高く、県内就職希望者にとってはなくてはならない催しとなっております。

### ●活動のモットー

校友相互の交流はもとより、県内の教員部会所属の高校教員と連携して「就職に強い日大工学部」「面倒見の良い・家族大学工学部」の積極的PRを行い、優秀な高校生を母校に送ろうと積極的活動を実施しております。



## 四国支部

香川県さぬき市志度1178-4  
☎087-894-1040



支部長  
**六車 秀世**  
(土木 16 回卒)

- **支会構成**  
香川支会 愛媛支会  
徳島支会 高知支会
- **役員**  
支部長(香川) **六車 秀世**(土木16)  
事務局長(香川) **藪内 清二**(建築33)  
副支部長(愛媛) **永井 次郎**(建築14)  
副支部長(徳島) **藤原 賢治**(建築36)  
副支部長(高知) **東條 傑**(機械25)



令和元年度四国支部総会

### ● 主な年間行事

四国支部総会… 8月下旬頃  
香川支会… 4月上旬頃  
愛媛支会… 10月下旬頃  
徳島支会… 11月初旬頃  
高知支会… 2～3月頃

### ● 本年度の活動

未定

### ● 活動のモットー

校友間の親睦と情報交換の会  
“一木会”を毎月第1木曜日(於)高松 18:00より開催しています。  
※来四国の折でもどうぞ!  
090-1577-5232 (六車)  
090-8691-4869 (藪内)



## 九州支部

福岡県福岡市博多区板付4-6-33  
(株)北洋建設内 ☎092-589-0151



支部長  
**上田 勝**  
(土木 28 回卒)

- **担当エリア**  
九州・沖縄



令和元年の総会

### ● 主な年間行事

毎月第3木曜日 アカシヤ会(緊急事態宣言のため4月のみ休会)。10月から11月に毎年開催されている支部総会は翌年に延期。

### ● 本年度の活動

毎月第3木曜日の集まりであるアカシヤ会は18時半より、天神の平和楼本店3F「てんじん」にて引き続き行います。秋の支部総会は今のところ開催したいと思っておりますが新型コロナウイルス感染に対する状況を見ながら開催の可否を決定します。

### ● 活動のモットー

弊支部は現在、九州出身の卒業生が減少しているなか新会員がなかなか集まりません。ゆるーい支部ですので、どうかお若い皆様のご参加をお待ち申し上げます。もちろんお若い方も。校友間の情報交換や親睦を深めましょう!

## 教員部会

静岡県焼津市本中根485-5  
☎080-1626-6412



会長代行  
**久保田幸正**  
(建築 19 回卒)

- **支部構成**  
・北海道支部 ・青森支部  
・山形支部 ・福島支部  
・静岡支部  
・新潟支部(長野県・群馬県含む)  
・茨城支部設立準備中
- **役員名簿**  
会長代行 **久保田幸正**(建築19)  
相談役 **関根 敬次**(建築16)  
事務局長 **永田 進**(建築22)  
事務局長次長 **阿部 英敏**(工化33)  
常任幹事  
**久保田幸正**(建築19) **渡邊 秀雄**(機械20)  
**横尾 聡**(建築26) **大澤 俊幸**(土木27)  
**豊島 隆幸**(電気27) **田村 浩啓**(土木29)  
**伊藤 満**(建築30) **宮崎 拓也**(土木49)  
**田畑 剛**(建築52) **小林 邦之**(電気52)  
**大石 祐太**(建築61) **紅林 達哉**(土木62)  
**千葉 健寛**(建築65) **宗哲**(機械65)  
**中山 智博**(土木66) **吉村 恵太**(電電66)  
**山本 陽介**(電電67)

### ● 主な年間行事

各支部において総会(新人歓迎会)  
校友教員との意見交換会  
8月(オープンキャンパスの日程にあわせ)  
学術研究報告会 12月(教員部会)への積極的参加

### ● 本年度の活動

学部教職教室(宇佐美 浩特任教授・渡邊 真魚准教授)との連携により  
・教職採用選考試験に向けての指導及び情報提供  
・入試に向けての高校生、父母、高校教員への積極的 PR

### ● 活動のモットー

『優秀な高校生を母校に送ろう!』校友教員相互の懇親・交流  
昭和20年代から平成初期迄は全国工業高校における工業教員出身校別の第1位は日本大学工学部でありました。さらに校長職及び各地区の研究会等の指導的立場で活躍されていた教員も我が工学部校友でありました。人数こそ減少しましたが、この伝統は今も続いております。工業のみならず中学、高校の数学、理科、技術の免許も取れる特色をしっかりと認識して、多くの優秀な教員を輩出し、母校の発展に寄与したいと思います。



## 高崎格氏(建築14回)追悼 — 教員部会(アカシア教育研究会)会長 —



教員部会事務局長

永田 進 (建築 22 回卒)

日本大学工学部校友会教員部会(アカシア教育研究会)がアカシア建築教育研究会として呱呱の声を上げたのは平成13年のことですので、本年で20年目の節目を迎えたことになりました。

その間、工学部校友会・学部当局から多大な御支援、御協力を頂き、今日に至りました。設立目的の『会員相互の懇親、教職希望の学生への支援、少子化による大学冬の時代に対応するため、優秀な高校生を多数母校に送ろう!』を強力に推進するため、会員一同一致協力して、今日迄、歩んで来ました。その成果として、工学部への志願者数はこの数年増加の一途を辿り、特に推薦系の入試においては、志願者の7割近くが、校友在職校からという数字に顕著に現れております。

その「母校に優秀な高校生を多数送ろう!」と会の設立当初から、声を大にして活動されて来られたのが高崎先生でありました。20年前設立の為、まさに手弁当て何度も北の大地から郡山の地に足を運ばれた姿が、はっきりと眼前に浮かびます。

その先生が、令和元年6月6日、病の為、御逝去されました。先生は北海道立三笠高等学校より第二工学部建築学科に入学、学生時代は学生自治会長も務め、学部名称変更先生方と共に力を合わせたと常々申されておりました。現在の理工学部がすでに工学部という名称から名称を変更していたにもかかわらず、さらに突然、第一工学部(現在の生産工学部)が誕生し、郡山の怒りが頂点に達し、学生と先生方が一体となって名称変更にも努力したようです。新しい名称は工学部(郡山)となるようでしたが、すっかり工学部という名称になったのは、工学部誕生の親である古田重二良会頭のおかげであると常々申されておりました。

その第二工学部最後の卒業生である先生は、ご尊父の影響を受け、教育者として、道北の伝統校、旭川工高に高校教員として第一歩を踏み出したのであります。美しい自然に囲まれた大雪山の麓で、若さと情熱のすべてを生徒にぶつけました。その旭川工高から多くの有為な人材を生み出しましたが、先生と二人三脚で、当会を盛り立て、北海道支部を設立された、故・行場義修氏(建築30回)や今日、北海道工業高校教育の最前線で活躍されている、太田潤一札幌工高校長(電気34回)、母校で重責を担っている池原智宏教頭(建築38回)が誕生されております。その後先生は、厳寒の地、最北端の工

高である名寄工高(現、名寄産業高)に異動されました。同校は先生の赴任される数年前、生徒の問題行動が多発し、学校運営が困難を窮め、年度途中で、校長、教頭が交代し、2週間にわたり休校とせざるを得ない異常事態ということがありました。その余燼が燻る中の赴任となったわけであります。それも、学校再建に向けて、旭川時代の先生の大きな実績を認められてのことでありました。期待通り、生徒指導主任、建築科長等の要職を担いながら、強い信念と、持ち前の行動力で、学校再建に御尽力されました。

当時、秋田県出身の川崎知之先生(建築38回)も高校教員として赴任、先輩である先生のもとで多くの薫陶を受けたとお聞きしております。その後、川崎先生は母校の要請で故郷に戻られ、横手清陵学院高校(旧横手工高)を経て、現在大曲工高に勤務されております。高崎先生譲りの情熱と卓越した指導力で教育にあたられ、母校にも多くの生徒を送っていただいております。まさに秋田県工業教育の中核員として活躍中であります。

名寄工高で多くの実績を残された高崎先生はその後、道の中心工高である札幌工高に異動、教科指導はもとより、ボクシング部の監督としても、全国大会出場の常連校に育て、さらに、日本建築学会北海道支部の役員等、縦横無尽の活躍をされました。定年後も講師として長く後輩の育成に力を注いで来ました。

そして、御逝去の1~2年前より病に冒されておりましたが、「家族大学工学部」こそが工学部の伝統と誇りであり、先輩として、後輩の面倒を見るのが校友としての役目であると常々申しておりました。先生のお亡くなるになる半年前、片腕であり、後輩でもある行場先生の御逝去は先生に大きな打撃を与えました。厳しい寒さのご葬儀にもかかわらず、遠く札幌から『行場君のお見送りだけは』と先生の体調を心配された多くの方々のお言葉があった中、病身に鞭打って御参列されました。そのお姿を見て、多くの参列者は先生の強い後輩への愛情と心遣いに、強い感銘を受けたそうです。

先生は教育者として、又、母校を愛する校友として、全力疾走された、すばらしい人生であったと思います。その教えは、多くの教え子はもちろん、校友の我々にも永く語り継がれると確心しております。

先生の永年の活動に対する御功績に対し、校友会より特別功労賞を、太田潤一先生(当時旭川工高校長)のご配慮により奥様、御両親、教職員参列のもと授与させていただきました。

遠い銀河の彼方へ行かれてしまいました。北の大地から、先生の誇りであり、愛した工学部を見守っていただきたく思います。合掌。

## 校友会より

### 木村圭二（建築3回）、佐藤光正（機械9回）両校友会相談役に感謝状を贈る

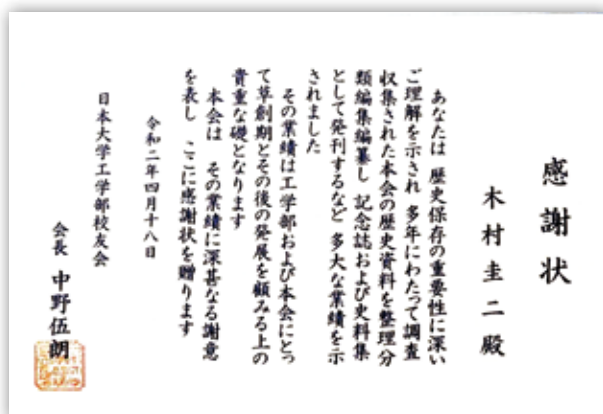
両氏は昭和30年代の本会草創期から平成、令和に至るまで種々の活動に参画されると共に、会長を歴任する等、本会事業の中核を担って参りました。最近の主要な業績として「50周年記念誌」及び「60周年記念史料集」の編纂・発刊があります。これは両者の「生き字引」としての存在無くしては為しえなかったことであります。この業績に対し、本会は両氏に令和2年4月18日、記念品を添えて感謝状（写真参照）を贈呈しました。



木村 圭二氏



佐藤 光正氏



### 校友会賞受賞者

以下の3名に令和元年度校友会賞の授与を行いました。（敬称略）

- 長沼 優人（生命） 体育会第50代委員長
- 蓮沼 大希（情報） 第68回北桜祭実行委員会委員長
- 白石慧太郎（生命） 應援團第63代團長

### 住所変更について

転居、転職の際は校友会事務局までご一報をお願いします。「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて随時承っております。



## ～工学部校友会 校友企業の皆さんへ～

### 在学生のために校友企業の求人情報をご提供ください

日本大学工学部校友会会長 中野 伍朗

日頃より工学部の**校友企業（オーナーが工学部校友の企業）**の皆様には工学部の学部生と大学院生（共に日本大学校友会の準会員）の就職をご支援頂き御礼申し上げます。ご承知のように工学部の学生は全国から入学していますが、修学後は出身地へのUターン就職希望者が少子化の影響で増加しています。工学部では毎年約1,000名の卒業・修了生が巣立ちます。一方、求人は首都圏とその近郊が多く、地方の求人は少ないのが現状です。そこで、地方にUターン就職希望の学生は公務員として戻るか大都市圏に不本意就職する事になります。

このため、昨年に続き工学部から工学部校友会に「**校友企業の求人情報を学生のために活用させて頂きたい**」との依頼がありました。本校友会では工学部就職指導課と連携し、平成29年度から工学部ホームページの求人情報サイト（CSnavi）に「**校友企業の求人情報**」を掲載しました。

このようにUターン就職を目指す学生には地方の校友企業の求人は必要不可欠です。**全国の工学部校友企業のオーナーの皆様、後輩の就職支援や御社のPRとして求人情報をご提供くださいますようお願い申し上げます。**

つきましては、御社の求人情報（求人申込書及び卒業生在籍者名簿）を工学部校友会までメール（校友会ホームページから）または郵送等でお送りください。なお、卒業生名簿等は個人情報保護に十分留意いたします。

末筆ながら、御社の益々のご発展を祈念いたします。



## 令和元年東日本台風(台風19号)による洪水被害を振り返る



蔭山 寿一さん  
(建築 28 回卒)

台風 19 号による被災当日 10 月 13 日(日)・14 日(体育の日)は休業日で、社員の避難は必要ありませんでしたが、自宅が被災した一部の社員は親戚宅に避難しました。

私の経営する企業グループの被災状況は、日大通り沿いにある(株)蔭山工務店本社が床上 10cm、日大正門前にあるキュアホーム訪問看護ステーションが床上 30cm、中央工業団地にある藤寿産業(株)の集成材工場が 50cm～100cm 浸水しました。また、近辺に所有する共同住宅 3 棟も床上浸水しました。

被災総額は建物、機械、車両、原材料、製品などグループ企業合せて約 15 億円、復旧費用総額は約 5 億円にのぼりました。

復旧費用のほとんどは機械設備で、多くはすでに生産終了のものや、メーカーが廃業してしまったものであり、グループ補助金申請にあたり、現状同等復旧を原則とされ、機械の選定や了承を得るのに大変苦勞をしました。また、海外メーカーの機械については、その後のコロナ禍により、機械や部品の納期が遅れたり、技術者が来日できなかつたりと復旧が進みませんでした。令和 2 年度末にはなんとか復旧完了の見込みです。



西家 千尋さん  
(建築 28 回卒)

令和元年の台風 19 号による洪水被害で、自宅が被災しました。自宅は工学部に隣接する古池に囲まれた地域のほぼ中央に位置します。

当日は事前に避難指示が出ていたので、所定の避難所へ行くべきでしたが諸事情があり 2 階への避難としました。被災状況は、1 m 弱の床上浸水でしたが、周辺より低地のため水が引かず、ほぼ 1 日の浸水により 1 階の家具機器等は再使用が不可能な状態、車両も 2 台浸水して全損でした。自宅に併設した事務所は、中二階に有ったために、被害が無く不幸中の幸いでした。

3 日目から道路も通行可能となり片付けを本格的に始めましたが、近隣地区には軽トラ等の車両が不足しており、協力して頂ける方と車両の都合により 2 日間で片づける必要があったため、被災した家財の選別はせずにほぼ全廃棄でした。なるべく早く解体をして躯体を乾燥させたいので、解体の見積もりを取らずに、出来高で支払う約束で工事に着手し、床、建具、住設機器は全撤去、壁は建具高さまで撤去としました。修繕工事は約 3 か月を要しました。省みますと、本来ならば乾燥期間を数か月確保するべきだったのかもしれませんが、当時は、確保できた業者を手放したくない気持ちが優先していました。

比較的スムーズだった点は、保険の賠償金額の算定が早く安心して工事実施ができたことがあります。今回の水害では火災保険の金額が不足、水害特約が無く苦勞している方も多くいる様です。保険の見直しは随時必要かと思いました。



## 令和元年東日本台風による被災と コロナ禍を乗り越えて



日本大学工学部  
工学研究所長兼ロハス工学センター長  
土木工学科 教授 岩城 一郎

### はじめに

2020年4月より工学研究所長を拝命するとともに、同年7月に設立されたロハス工学センターのセンター長も兼務することとなりました岩城です。よろしくお願ひします。

2020年は校友の皆様方も同様かと存じますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に追われた1年となりました。加えて、本学部では2019年10月に発災した令和元年東日本台風により甚大な被害を受けたため、その復旧のさなかに新型コロナの問題にも対応せざるを得ない状況となりました。このように極めて多難な年ではありましたが、そんな中でも東日本大震災からの復興を果たしたように、今回も教職員一丸となり、学生の教育と研究の質・量の保証に尽力してまいりました。学生は慣れないオンライン授業に戸惑うこともあったかと思いますが、何とか乗り切ってくれたように思います。来年度はまたキャンパスに多くの学生の笑顔があふれ、学生生活を満喫してくれることを願ってやみません。

さて、このように、この1年半ほどは本学部にとってまさに多難であったと言えますが、そんな中でも「日本大学工学部」のプレゼンス(存在感)を対外的に示し、地域にとって欠かせない大学であることをご理解いただくため、様々なプロジェクトを展開してまいりました。ここでは、2つのプロジェクトの内容を紹介させていただき、今後のプロジェクトの発展に向けて、校友の皆様方のご協力をお願いしたく存じます。

### キャンパス強靱化プロジェクト

2019年10月12日から13日未明にかけて令和元年東日本台風の影響により、郡山市では観測史上最大の24時間降水量(211mm)を記録し、キャンパス内で場所によって2mを超える浸水に見舞われました。また、キャンパス周辺地域に住む多くの学生も避難を余儀なくされ、幸い人命に至る被害はなかったものの、一歩間違えばという事態にさらされました。このように、本来、安全・安心であるべき大学のキャンパスが被災したという事実を重く受け止め、同様の被害が再び起こらないようにするため、工学部の英知を結集してこの問題に取り組むこととし、同年10月30日にキャンパス強靱化プロジェクトを立ち上げました。具体的にはキャンパス近くを流れる阿武隈川の外水氾濫とキャンパス内を流れる徳定川の内水氾濫による影響を定量評価し、学生および周辺住民が安全に避難できる避難

所と避難経路を提案することを目的としました。

メンバーは、土木工学科、建築学科、情報工学科の教員と学生、さらには郡山市役所の協力をいただきました(表-1参照)。検討手順として、はじめに、①情報工学科中村和樹准教授により、空中写真やドローンによる撮影画像を処理することで、キャンパスおよびその周辺地域の精緻な地形情報を取得しました(図-1参照)。写真より、阿武隈川や徳定川の様子に加え、古川池や笹原川のバックウォーターの状況など、校友の皆様方が慣れ親しんだエリアの被災状況が手に取るようにわかります。次いで、②土木工学科金山進教授と研究室の学生らにより、阿武隈川からの外水氾濫と徳定川の内水氾濫(郡山市役所との連携)に関する流量解析が行われました。さらに、③土木工学科知野泰明准教授と学生により、キャンパス内建物の浸水深さの測定を行い、②の解析値と③の実測値を照合することで、解析結果の妥当性を検証しました。最後に④建築学科森山修治教授と研究室の学生らにより、アンケート結果や解析結果に基づき、避難所および避難経路の選定が行われました。

リーダー: 岩城 一郎 教授(土木工学科) TF1: 現象把握・機構解明 主査: 金山 進 教授(土木工学科) アドバイザー ・ 高橋 逸夫 名誉教授 ・ 長村 久夫 名誉教授 メンバー ・ 中野 和典 教授 ・ 朝岡 良浩 准教授 ・ 子田 康弘 准教授 ・ 知野 泰明 准教授	・ 手塚 公裕 准教授 ・ 前島 拓 助教(以上、土木工学科) ・ 中村 和樹 准教授(情報工学科) ・ オブザーバ: 池田 剛 河川課長(郡山市役所建設部) TF2: 住環境・避難行動 主査: 森山 修治 教授(建築学科) メンバー ・ 浦部 智義 教授 ・ 宮嶋 渉 専任講師(以上、建築学科)
--	---

表1  
キャンパス強靱化プロジェクトメンバー

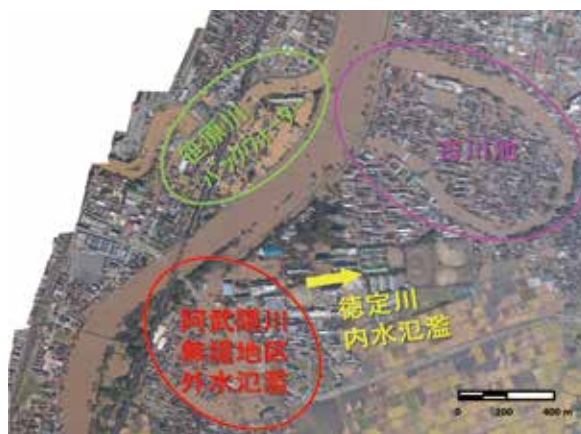


図1 被害状況

以上の検討結果より、キャンパスが浸水したメカニズムとして、阿武隈川からの外水氾濫により約220万㎡の水がキャンパス内に流れ込んだこと(現在築堤完了)、さらに徳定川の内水氾濫により55万㎡があふれたことで、図-2に示す最大水深図になったと推定され、これとキャンパス内建物の浸水深さがほぼ一致したことから、解析結果の妥当性が証明されました。さらに、被災状況や、避難パターン、避難所としてのキャパシティーなどから、キャンパス内の70号館教室棟が避難所として適していることを



提案しました（現在、郡山市の指定避難所に認定）。以上の研究成果は2020年10月17日に「未曾有の大水害からキャンパスとその周辺を守るためには」と題して開催されたロハス工学シンポジウムにおいて公表され、オンライン開催の効果もあって、市民を含む1000人以上の聴講がありました。また、多くの報道機関から取材を受け、その都度、なぜ防災直後からこれほど迅速

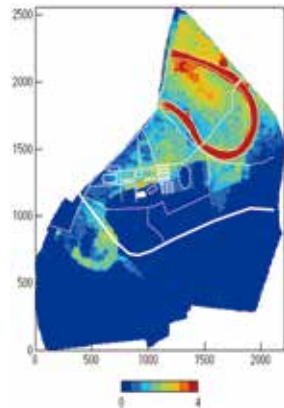


図2 最大水深推定図

かつ円滑に研究を進めることができたか質問を受けました。これに対し著者は、本学部では以前から「ロハス工学」に基づく分野横断的研究を進めており、いざという時、速やかに、教員と学生、産学官の連携の下、教職員が一体となって、研究できる素地が整っているからであり、これこそが日本大学工学部の強みであると胸を張って答えることができました。

### ロハスの家跡地再生プロジェクト

本学部では、2008年より「ロハスの家研究プロジェクト」を始動させ、2009年から順次ロハスの家1号、2号、3号が構築されるとともに、浅部地中熱センターやロハスの花壇を設置することで、工学部の掲げるロハス工学をPRする場として活用してきました。しかしながら、このエリアも令和元年東日本台風により、最大2m程度浸水してしまい、研究の継続を断念せざるを得なくなりました。被災したロハスの家を見て、呆然としつつも、この地に新たにロハス工学の第2弾となる、ロハスの家以上の魅力的な施設を作ろうという意を強く持ったことを覚えています。その後、学部内の諸会議で説明し、職員の方々の協力も得て、ロハス工学センターの設立に合わせ、「ロハスの家跡地再生プロジェクト」を立ち上げることとなりました。その目的は、令和元年東日本台風により被災したロハスの家跡地を、学生・教職員・地域住民のロハス（健康と持続可能な生活スタイル）を実現させるための新たな空間として再生させることであり、短期（1年）・中期（3年）・長期（10年）・超長期（20年）を意識し、ロハス・キャンパスにつながる持続可能なプロジェクトを目指すこととしました。

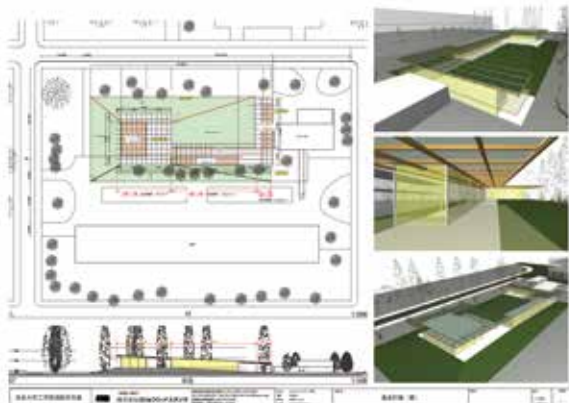


図3 ロハスの家跡地再生プロジェクトの基本計画(案)

本プロジェクトの基本コンセプトは以下のとおりです。

- 見せる施設から使える施設（カフェ、工房など）へ
- 家から公共施設・コミュニティを想起させる施設へ
- 健康（Health）と持続可能性（Sustainability）の両立を目指した施設、すなわち快適（健康的）な空間を有し、災害に強く、長く使える施設
- 暮らし、学び、食（農）、遊びを体感できる施設
- 施設を利用した学生、教職員、市民の健康（Health）と持続可能性（Sustainability）に関する研究を推進するための施設
- ロハスの家プロジェクトで実装できなかった技術の導入（バイオマス&蓄電など）を目指した施設

なお、実装に当たっては教職員と学生、地域住民（福島県民）の意見を偏りなく吸い上げ、検討することとし、校友の皆様方からも忌憚のないご意見を賜りたいと思っています。

現在、ロハス工学センターの中に設置されている運営委員会のメンバーと、各学科・専攻から選抜された学生との間で、当面3年以内を目標に第1期工事として完成させるための基本計画を策定中です。その原案は建築学科の浦部智義教授の研究室と「はりゅうウッズスタジオ」との共同で作成されています。2020年度はロハスの家を解体し、更地にするための工事を行い、2021年度からは、まず盛土工を施し、最重要施設は現状より2m高い盛土上に設置することで、台風19号と同程度の水害を受けても施設の心臓部は守られる設計となっています。また、2021年度内にロハスカフェを開設し、学生と教職員の触れ合いの場とする予定です。さらに2022年度、2023年度と順次、工房、ライブラirieといった施設を構築し、大学関係者のみならず地域の方々や校友の皆様方の憩いの場を提供したいと考えています。構造上の特徴として、屋根に木造の格子を組み、その上に雨水循環施設や発電施設といったライフラインを整備する計画で、さらに屋上菜園を設置し、収穫した食材はカフェで提供し、排出された残飯はバイオマスに利活用するなどの自立共生型の施設を目指しています。これまでのロハスの家が、エネルギー自立を中心とした住宅のあり方を示してきたのに対し、今回のプロジェクトでは「いえ」から「コミュニティ」への広がりを意識している点が特徴です。その際、皆が自由に集える、開かれた新しい公共空間「ロハスの広場」が重要な意味を持つため、エネルギーや快適性を意識しつつ、健康づくり・モノづくりなどを体験・挑戦できるエリアとして創作していきたいと考えています。

### おわりに

人口減少、少子高齢化が加速する中で、大学も近い将来淘汰の時代を迎えることは自明です。そんな中で生き残れる大学の条件に、社会的に発信できる「売り」があること、その地域になくはない大学であることが挙げられるように思います。幸い日本大学工学部には先達が築いてくれた「ロハス工学」を基軸とした確固たる教育研究基盤があり、加えて誠実で粘り強い学生たちが生み出す研究成果が地域社会に貢献しようとしています。今後も、「学生のため、地域のため」を合言葉に、地域に頼りにされる日本大学工学部を目指して研究を推進していきたいと考えています。校友の皆様方のご協力を引き続きお願い申し上げます。

## コロナ禍での授業



日本大学工学部 学務担当  
建築学科 教授 浦部 智義

新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

工学部では、にわかに COVID-19（新型コロナウイルス）が感染拡大し始めた 2019 年度末、新学期の開始も迫り、年度初めの入学式や新入生の学外研修などの中止が決まる中、授業の形態のみ不確定でありました。他大学や他学部では、オンライン授業のみでの開始、また開始時期を 4 月下旬や 5 月以降に遅らせる大学など、立地や特性に応じて対応の違いが見られましたが、工学部では第一に日本大学全体の方針、第二に感染者が少なかった郡山市内の状況、第三に未だ県外の実家に滞在している多数の学生の移動などを総合的に判断するという難しい対応を迫られました。そんな中、緊急事態宣言の発令に伴う大学全体の方針として入構禁止措置が取られ、全ての授業をオンラインで行う準備をはじめ、授業開始の時期も 5 月連休明けからに決定しました。

それらと並行して、工学部では執行部において様々な学部運営の議論を重ね、授業に関しては、大学本部で契約している google サービスの meet（後学期から Zoom も併用）や classroom を主として使用する双方向型やオンデマンド型のオンライン授業を行う方向性を決めました。その上で、各学科、総合教育の先生方と事務局による遠隔授業ワーキンググループを立ち上げ、授業展開の詳細を詰めながら学部内に浸透させていきました。初めての試みであった故、当然ながら、学生は初期設定も含めた遠隔操作、教員側は短期間での慣れない授業コンテンツづくり、事務局はその管理やスムーズな運営、といった面に不安を覚えながらの準備作業でありました。結果としては、授業開始当初は軽微な問題はあり

ましたが、オンライン授業は、現在まで大過なく展開できていると思われれます。振り返って見ると前述したように、その当時も現在も、教職員一体となって試行錯誤しながら、学生にとってより良い教育や環境づくりを目指して走り続けております。

具体的に、オンライン授業に関しては、時間割通りのリモート接続・動画配信とし、特にオンデマンド型の出席確認は、期限を設定した課題レポート提出によって行うことを原則としたため、自宅等での長時間パソコンに向かうという環境も相俟って、履修科目数によっては負荷が大きいという授業評価も見られました。そのような状況で、諦めてしまいそうな学生に対しては、現在まで培った「面倒見の良い学部」としてのノウハウを活かし、教職員一体となってフォローを行っております。また、教員も当初は手探りでありましたが、学生の反応を見ながら、飽きさせない授業コンテンツや取り組みやすい課題とするなどの工夫を凝らしております。

緊急事態宣言解除後は、市中の感染状況を見ながら、できるだけ早い時期に学生のキャンパスへの入構を実現する方向で動き出しました。6 月に入ると、大学院生を中心とした研究室の活動、6 月中旬からは、対面での授業形態が望まれた一部の実験実習や演習科目について、キャンパスへの入構や教室への入室人数を時間差で調整するなどして、対面での授業を実施しました（図 1・2）。そのキャンパスへの入構に際しては、検温とカードリーダーによる記録（図 3）、研究室や教室においては、着座位置や行動の記録を必須としました。後学期には、時間割通りに教室に教員が滞在し、そこでオンライン授業の動画を流して、教員との対面での視聴や質疑応答を希望する学生に対応するようなハイブリッド型の授業展開をする科目もあります。

今後も当該地域の COVID-19 の感染拡大の状況に応じて、工学部の学生や各学科や課程の教育内容の特性に鑑みながら、柔軟な授業展開ができればと考えております。



図 1

人数調整をして行った建築設計演習の対面授業時の様子



図 2

【左】化学実験の教員説明風景（壁際の PC は双方向でのオンライン参加の学生用）  
【右】人数を制限して行った化学実験の様子



図 3

本館入口のサーモグラフィーによる検温とカードリーダーの様子



# 新☆エネルギーコンテスト開催報告 ～台風19号にも負けず、COVID-19にも負けず～



日本大学工学部 機械工学科 教授  
佐々木直栄 (機械 35 回卒)

新☆エネルギーコンテストは、2020 年度で 13 回目を数える日本機械学会主催のエネルギーコンテストです。「☆」には、従来の「新エネルギー」に限定せず、より広範囲なエネルギーを対象として、斬新な利用方法のアイデアを募ろうという思いが込められています。

第 5 回コンテスト (2012 年 10 月 20 日) 以降は、日本大学工学部での定置開催を実現しています。これは、“震災復興途上にある福島を見守るイベントとしての定置開催” という型破りな著者の発想をお認め頂いた日本機械学会 (企画部門：技術と社会部門) の寛大なご判断によるものです。

第 11 回コンテスト (2018 年 9 月 7 日) までの取り組みが認められて、「新☆エネルギーコンテストによる持続可能なエネルギー利用に関する工学教育の推進」という御題目で、日本機械学会教育賞 (2019 年 4 月 18 日、教育第 77 号) を受賞することができました。毎回、新たな試みを取り入れて、継続的に取り組んできたことが評価されたものと考えています。

このように、順風満帆に見えた新☆エネルギーコンテ

ストですが、この後、予想だにしなかった荒波に立て続けに見舞われることとなります。

昨年度の第 12 回コンテスト (2019 年 10 月 19 日) は、台風 19 号による本学キャンパス内の甚大な浸水被害により、中止せざるを得ませんでした。既に、応募受付や概要集の印刷が完了していたため、概要集は予定通り発行され、掲載されたポスターは発表済みと認められました。協賛企業・団体の審査員の皆様には、ポスターデータに基づく審査への急変更にもかかわらず、迅速にご対応いただき、例年通りの贈賞を行うことができました。

今年度の第 13 回コンテスト (2020 年 10 月 17 日) は、COVID-19 の感染拡大の影響により、かなり早い時期に WEB 開催することに変更せざるを得ませんでした。学会行事の実行部隊として WEB 開催を運営する初の試みでしたが、WEB 授業の経験を活かしつつ、Zoom を利用して、ポスターセッションを再現することができました。ポスターデータに基づく企業賞・団体賞の審査も、昨年度の経験を活かして、円滑に進めることができました。何よりの朗報は、社会人から初めての応募があったことです。従来は、高校生、高専生、大学生および大学院生の応募に止まっていたので、今後の更なる発展の起点となることが期待されます。

校友の皆様からのコンテスト応募や、協賛申込みも大歓迎いたしますので、何卒よろしく願いいたします。



写真 1

企業賞を受賞した日大工学部生による代表的ポスターの外観写真  
左：第 12 回受賞作品「再生可能エネルギーを用いた健康ハウス～ロハスの家 4 号」(学部 4 年生グループ)、右：第 13 回受賞作品「Solar Sailing Ship」(学部 2 年生グループ)

写真 2

冊子 (第 12 回) から CD-ROM (第 13 回) への概要集の進化  
※日大工学部定置開催 2 回目の第 6 回コンテストから概要集を発行しています。若干の在庫がありますので、ご購入希望の方は連絡ください。



## イタリアで想いをデザインに

オミ・タハラ (土木 48 回卒)

■イタリアはミラノを拠点にデザイナー / ディレクターをしています。活動の軸はモダンファニチャー、家具のデザインです。ミラノはモダン家具の世界的中心地で、そこで修行を積み独立、早いもので在住 17 年です。デザインの経験を活かし、クリエイティブディレクターや、一部上場企業の顧問などもしています。

■主な活動について。大別するとデザイナー業とクリエイティブディレクター業です。家具デザイナーは、家具ブランドの新製品デザインを考案するのが主な仕事です。クリエイティブディレクターは、ブランド価値の構築や、それに必要なデザイナー達の選定や監修を行う仕事です。これらは、スポーツチームの選手と監督の関係に似ています。自分の場合、ディレクターとしてブランド作りをしつつデザインも行う、選手兼監督のような立場も多いです。

■デザインが生まれる背景。そこにはクライアントの想いや課題、世情などの影響があります。

1.ラタン家具(藤家具) デザインのケース。当時はラタン家具=古いもの、という印象が根強く、それを払拭したいメーカー側の想いを受け、ラタン家具のイメージを一新するモダンなシリーズを提案、海外デザイン賞複数受賞。NY タイムズ含む各国のデザイン誌などで紹介されました。



ラタン家具作品 / wrap sofa

一方で、はじめに課題が明確ではないケースも多いです。その場合は自ら問いや課題を見つけ答えを導き出します。

2.ミラノを代表する老舗高級家具ブランド、伊 De Padova (デパドヴァ) 社のケース。家具商品の中でも花形であるソファデザインの依頼を受けた当時は、女性の創業者からスタートしたブランドに新しい男性 CEO を迎え世代交代したばかり。双方のスタイルをリスペクトし、今までとこれからの歴史をつなぐデザインであることが重要に感じました。出来上がったのは女性的でしなやかな曲線ラインと、男性的なシャープな造形を併せ持ったジェンダーレスなデザイン。同ブランドのトップセールスを記録しています。



伊 De Padova 社ソファ作品 / blendy sofa

■ディレクションワーク例。ミラノでは毎年、世界最大規模の家具見本市(ミラノサローネ)が開催されます。展示会場のデザインやスタイリング、カタログデザインなど、クリエイティブディレクターとして様々な業務の総括を行います。美しい世界観を追求しつつも、来場者にどうブランドの価値を伝えるかの意識も重要です。

■デザインの役割。デザインはある種の言語である、という言葉があります。うまく言い表せない気持ちを翻訳する様に、何かをカタチにし、表現することは、デザインの役割のひとつに思っています。デザインのアプローチは多種多様で、絶対な正解が無いのが面白いところです。自分の場合、まずリサーチを入念に行います。情報が自分というフィルターを通り、自分なりの感性と混ざり合い、課題や解決アイデアが生まれます。アイデアが出れば終わりではなく、設計図や試作チェックと改良を手間暇かけて繰り返します。特に自分は制作現場が好きなタイプで、工房の職人さんと一緒に粉まみれになって開発を行うこともしばしばです。

■今後の展望。モダン家具デザインは、他業種も注目する業界で、近年では様々な分野からの依頼も増えています。ファッションブランドからの依頼も多く、去年はバッグのデザインを発表しました。そこでも、今まで培った課題解決へのプロセスや、長い海外生活で学んだ文化や気づきが役に立っています。将来的展望は、デザインの仕事にとどまらず、日本と海外との国際交流など、文化の架け橋となる活動もしていきたいと思っています。

[www.omitahara.com](http://www.omitahara.com)



イタリアでのミーティング風景



# 校友レポート



## 今は陶芸家です

ふたつき こうぶん  
二木 好文 (機械 18 回卒)

令和 2 年 7 月、大阪の拓青芸術協会展示会に、作を応募、毎日新聞社賞を受賞しました。それが、相模原市のタウンニュースの記事となり、瞬時に校友会から、会報への原稿を依頼され、その検索に感心した次第です。卒後 50 年の劣等生は寄稿に値する輩ではないのですが、現在に至る経緯などを書いてみます。

私は在学中、金属学関連と卒業研究には大変興味があり、種々の文献から知識も吸収しておりました。卒研指導は菅野宗和先生、小野沢元久先生でした。就職は 2 年ほど金属加工の工場に勤務、その後、写真や、X 線フィルム、カメラなどの生販会社で複写機の技術、研究所、生産などの職場におりました。33 歳ごろ日本生産性本部のビジネススクール受講を許可され、卒業し 2 年後、工場の生産システム、ラインを数十億円かけ、部品供給を自動倉庫からラインへの直送に作り変えました。工場全体設計に注力しておりましたが、西ドイツに複写機の工場を作る事となり、「設立して、運営してこい」との命で、ドイツ統合の揺れの中、7 年ほどおりました。この間、ドイツ在の日系企業の中で最初に「ISO9002」の認証を取り、日科技連の「品質管理」誌に寄稿しました。帰国 3 年ほどで、再度ドイツ赴任、欧州統括本部 (HQ) で、私は生産担当副社長でありました。計 10 年ほどをドイツで過ごしました。簡単な英語は可能なので、現在、陶芸財団の国立新美術館での展示会では、語学ボランティアをしております (もちろん作家として展示もあります)。時折海外の学芸員や陶芸家が訪れ、質問も受けますが、基本の技術知識はあり、何とか対応しております。

母校関連で鮮明な記憶は、2008 年、陶芸財団展にてポーラ伝統文化振興財団賞を受賞。これを菅野先生に報告、なんと、福島から御夫婦で展示中の六本木の美術館までおいで頂きました。その事もあり、この作「楼蘭」は、工学部へ謹呈いたしました。金属と釉薬の硅石、素材の違いはありますが、結晶成長には、『徐冷』という共通項がありました。

もう一つの記憶は、卒後 2 年ほどで参加した、金属学会の夏期講習会でのことです。東北大学で 2 泊 3 日の内容でした。郡山で講義されていた大平五郎先生は、金属学会会長になられていたと思います。講習会 2 日目、午前中の休憩中、大平先生が、ご自身でお茶を注いで、真っ直ぐ私のところへおいでになり、話しかけてくださいました。卒業後であるし、偶然かと思っていました。昼食後、先生がまたお茶を私に、お話しせねばと「郡山で先生の講義を受けて

おりました」と申し上げた瞬間。「あ、どこで会ったか思い出せなくて、前から 3 番目の机、左から 7 人目くらいにいつも君は座っていた」恐るべき記憶力で、驚嘆。今でも畏敬の念を抱きます。

勤務先の会社は国内もドイツも、生産工程はみな中国となり、私は早期退職し、何かやろうかと、結晶に関する言葉を検索中に、結晶釉薬を知り、粘性の高い中で結晶ができるのは面白いと思いました。“温度制御が高度に難しい (20 年ほど前)”と記述されていましたが、内容に疑義があり、私ならできると思考し、やってみました。最初から成功しました。それで陶芸を始めました。校友会から最初に要望もありましたので、私の作を数点ご紹介させていただきます。

私の作の基本の考えは、従来ないもの、新規開発や改造の釉薬、他の工法の応用技法であり、常にトライし、何らかの新規性を作に見出すことを続けております。



### 写真 1

銘：「楼蘭」 高さ：約 45cm  
2008 年 陶芸財団展  
ポーラ伝統文化振興財団賞  
2009 年工学部へ贈呈  
自作釉の酸化亜鉛、コバルト結晶釉と鉛とチタン、バナジン酸アンモンを用いたラスター釉



### 写真 2

天目形茶碗  
銘：「焰舞」 径：13cm  
宇野仁松氏 (1864-1937) の火炎紅のレンピを基に現代入手できる材料で置き換え、燃える炎の赤と揺らぐ紫煙を表す。



### 写真 3

銘：「結晶釉の花筏」 径：48cm  
2018 年  
国立新美術館 陶芸財団展  
最高位の文部科学大臣賞受賞  
全面に結晶形成させる塗布厚と、輻射熱を考慮した焼成の技。



### 写真 4

銘：「幽玄に入る II」  
(いうげんにいる、古語の発音)  
径：約 40cm  
2017 年 新日本美術院展  
特選 受賞 (上野 東京都美術館)  
樹木の葉を化学処理し、枯れ葉が地に戻る様子を表す。

日本大学工学部校友会各位

令和3年3月1日

校友会会長 中野 伍朗

## 令和3年度 通常総会通知

本会会則第11条により、日本大学工学部校友会令和3年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

1. 日 時/令和3年4月17日(土) 13時より
2. 場 所/日本大学工学部50周年記念館 3階
3. 議 題/(1) 令和元・2年度会務報告および決算報告  
(2) 令和3年度事業計画および予算審議  
(3) 役員改選  
(4) その他



※但し、変更等が生じた場合はホームページに掲載または事務局にて対応致します。

## 第40回 母校を訪ねる会

北桜祭との連携企画であるため、開催については現在、大学と調整中です。開催が決まり次第、対象学年の皆様にご案内状を送付及びホームページでの告知を致します(8月頃発送予定)。



写真部



美術部

本号では、大学の写真部(亀田宙統部長)の皆様より表紙・裏表紙の写真を、美術部(齋藤性部長)の皆様より挿絵を提供していただきました。発行に際しご協力いただきましたすべての皆様に対し、広報委員会より感謝申し上げます。

## 校友会報 第84号

発行者 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原1  
郵便番号 963-1165  
電話番号 024-944-1327  
FAX番号 024-944-1327  
URL : <https://www.nichidai-ce-koyukai.com>

発行部数 50,000部  
発行日 令和3年3月1日  
発行責任者 校友会会長 中野 伍朗  
編集責任者 広報委員長 千代 貞雄

